

1. 研究活動

＜論文＞			
「ヘルダーリンとフィヒテ ー『全知識学の基礎』を めぐって」	2013. 3. 30 発行	中部哲学会年報第 44 号 91-104 頁	1794 年のフィヒテ『全知識学の基礎』をめぐ るヘルダーリンの立場を論じた。
『音楽療法と哲学をめぐっ て』	2012. 5. 30 発行	『アリーナ』第 13 号（中 部大学）129-136 頁	音楽療法研究とその哲学的背景についてドイ ツおよびノルウェーの理論展開を踏まえて論 述した。
「文化としての音楽療法 ノルウェーから」	2013. 3	2010 年－2012 年科学研 究費補助金基盤研究 (B) 「北欧ケアの実地調査に 基づく理論的基礎と哲 学的背景の研究」(研究 代表者 浜渦辰二、大 阪大学) 研究成果報告書 49-63 頁	ノルウェーにおける音楽療法の特徴を文化と いう側面から明らかにした。
＜研究発表＞			
「合一をめぐってーフィ ヒテ、シラー、ヘルダーリ ンの社会構想について」	2012. 9. 29	中部哲学会 (場所：名古屋大学文学 研究科)	ヘルダーリンとフィヒテ、シラーの社会構想 を「合一」概念を軸に報告した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 倫理学	
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
現代の状況から福島原発事故、貧困と福祉という論点を取り上げ、問題の認識の仕方（報道のあり方の批判的検討を含む）、国民の立場からの問題の解決の方向性を問題提起的に話をした。福島については、海外（特にドイツ）のジャーナリズムの報道を紹介した。また、北欧については、講義担当者の北欧出張の経験を生かし、映像と体験をも含めて具体的なイメージがえられるようにした。	すべて内容はパワーポイントで作成した。

授業科目 哲学	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>哲学の理論を抽象的に解説するのではなく、文化に内在する哲学的諸問題を取り上げた。出発点としてノルウェーの画家ムンクの作品（「叫び」など）りあげを解釈し、そこに現代的人間のあり方（不安、孤立、疎外）をみた。その後同じくノルウェーの作家、イブセンの『人形の家』、『ペールギュント』を取り上げて、近代社会における自己の確立の問題を検討した。</p>	<p>パワーポイントで講義内容を作成した。</p>
授業科目 教養講座	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>哲学的美学の古典的テキスト（カント『判断力批判』、ヘーゲル『美学講義』）の一部を読み、「美」について考える試みを行った。</p>	<p>パワーポイントで資料を作成した。</p>

3. 学会等および社会における主な活動

日本哲学会		
中部哲学会		
ヘーゲル学会		
日本フィヒテ協会		
唯物論研究協会		
名古屋哲学研究会		運営委員